

技術士 1次試験に合格して



山本 公志
(やまもと たかゆき)

勤務先

株式会社 エル技術コンサルタント

環境調査部 調査1係

〒060-0005 札幌市中央区北5条西12丁目2番地

TEL 011-261-0931 FAX 011-261-0940

E-mail yamamoto@l-tech.co.jp

■ 専門：森林部門(専門分野)

1. 自己紹介

私は札幌市で生まれ、岩見沢市で育ちました。子供のころから自然や生き物が好きで、小学生のころは、学年一の「虫博士」でした。

父親は JR 北海道の土木エンジニアで、私も同じく土木の道を志し、測量の専門学校を卒業し、測量会社に就職しました。河川測量を専門とする会社に1年間在籍し、その後、現在の職場に至っております。

20代の半ば頃に、突然登山に目覚め、山でのキツイ仕事も訓練の一環として楽しめるようになり、気がつくと、社内でも指折りの「山屋」になっていました。

私が就職した頃は、測量といえば三脚と重たい機材を担ぎ、山に登って……といった体力勝負の趣が強かったのですが、近年はGNSS(衛星測位技術)や、衛星リモートセンシング等、ハイテク技術の波が押し寄せ、業態も随分と様変わりしたように思います。

2. 受験に至るまで

技術士というと、私のような測量・調査等を生業とする者には縁遠い資格だと思っていました。

測量に関わる資格というと、国家資格である測量士がありますが、現在では網平均計算や、GNSSの基線ベクトル解析等、高度な測量計算もワンクリックで出来るようになってしまい、昔のような絶対的な価値を見出しにくくなってきております。

そこで、技術者の持てる最高峰の国家資格である技術士を目指すことを決意しました。

技術士には、たくさんの部門がありますが、一般

に測量技術者が技術士を目指す場合においては、建設部門か、応用理学部門が多いと言われています。

しかし、私の場合は、山登りや山の現場を得意としていること、立木調査や環境調査等で森林関係の知識が比較的豊富なことから、森林部門での受験を決めました。

3. 受験体験

一回目の受験(22年度)は、何を勉強すればいいのかも解らず、先ずは様子見で……といった軽い気持ちで受験しました。専門科目では意外なほど手応えを感じたのですが、基礎科目のほうは、何が解らないのかすら解らないといった有様で、当然のように不合格。しかし、どこを強化すべきかという指標が明確になり、二回目の受験で何とか合格点に達することが出来ました。

4. 今後に向けて

技術士は、科学技術に関わる資格ですが、測量もまた科学技術の一つです。

我々の業界では、「測量屋は汗と泥にまみれて地べたと格闘するもの」という昔ながらの価値観がまだ生きている一方、GISや非接触計測技術の発達等、高度空間情報技術への対応も求められています。

そうした時代において、測量技術者も測量士だけで満足しては、生き残るのは難しいと感じています。今回の受験を通じて、測量屋が目指すべき最高の資格は、技術士であるという強い確信を得ました。

今後は二次試験の合格を目指し、努力を怠らずに邁進して行くつもりです。



今井 啓貴

(いまい ひろたか)

勤務先

地崎道路 株式会社

環境事業部

〒007-0841 札幌市東区北41条東8丁目2番10号

TEL 011-750-1700 FAX 011-750-1701

E-mail imai0655@chizakiroad.co.jp

■ 専門：環境部門

1. 自己紹介

私は、新潟県の上越市というところに生まれ、自然に囲まれた場所で大学入学までを過ごしました。当時から自然に興味があり、大学は農学科に進学し学びました。講義で学んだことを実際に歩いてフィールドに出て調査を行うこと、植物を見て学ぶことが非常に興味深いと感じていました。自然や環境が好きという理由で選んだのですが、非常に有意義な学生生活を送ることができました。

大学卒業後もフィールドに出る仕事に就きたいと考えていました。そこで現在の会社を見つけたのですが、環境に関わる部門もあるということで入社を決めました。現在は土壌汚染対策に興味があります。

2. 受験のきっかけ

技術士試験については大学時代から知っていました。技術者倫理という科目を選択していたこともあり技術士の方からお話を聞く機会もありました。

その時は、資格についてはあまり着目しませんでした。大学卒業後、現在の仕事に就き技術士資格に挑戦しようと決めました。

現在の会社に技術士がおらず、仕事上非常に重要な資格だと思ったからです。私の大学はJABEE認定のプログラムが取得でき、一次試験が免除になるチャンスがありました。今思えば惜しいことをしました。

3. 環境部門の受験

受験を決めた時から、過去問や試験対策参考書を勉強することから始めました。仕事の時間もあり、勉強時間の確保に苦労をしました。朝の出勤前時間を少し使って勉強したり、電車内で本を読んだりし

て少しずつ勉強時間を確保し、足りない分は休日を使って行いました。試験範囲が広く、学生時代のように丁寧にやっていると間に合わないのが広く浅く勉強することを意識していました。

中でも専門問題の参考書には環境白書を主に使用していましたが、この本は様々な知識や世の中の環境分野のニュースが凝縮されており、とても勉強になりました。一番苦労したのが基礎科目です。わからない問題の方が多く、合格基準に達することが難しいと感じていました。過去問を反復し、少しずつわかる問題を増やしていきました。

化学や環境分野など大学時代の知識が役に立ちました。卒業して間もない頃受験を決めることが試験突破に繋がったと思います。

4. 二次試験に向けて

今後は環境分野だけでなく業務に必要な土木分野などの資格取得を目指しつつ、幅広い知識を得ながら二次試験受験を目指したいと考えています。

特に二次試験は単に受験の勉強をするのだけでなく技術士として業務をする上での人間性も磨いていく必要があると感じています。まだ受験資格がありませんので、今から少しずつ準備をしていきたいと考えています。

まだ業務遂行能力・経験が不足だと感じています。そのためには多くの人との関わりを大切にして自分の「幅」を広げていけるよう頑張っていきたいです。

技術士という資格は知名度があるわけではありませんが、私も早く技術士となり北海道の豊かな自然環境を守っていければと考えています。



工藤 ゆり子
(くどう ゆりこ)

勤務先

北海道漁業環境保全対策本部
北海道漁業協同組合連合会
環境部

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目第1水産ビル8F
TEL 011-231-1025 FAX 011-271-0843
E-mail yu-kudou.1717@hfec.jp

■ 専門：環境部門

【自己紹介】

北海道札幌市で生まれ育ちました。中学ではリコーダー部、高校では化学部に所属し、バリバリ部活少女でした。大学はT区にある工業大学で4年間過ごしました。環境系の学科で、街づくりから水質分析まで幅広く学びました。おかげで急速に視野が広がり、身の回りの様々な出来事がにわかに意味を持って輝いて見えました。様々な分野に触れることができた経験は仕事にも生きています。研究室に配属になってからは、北海道千歳市を流れる美々川の水質と河川生態系の関係について卒業研究に取り組みました。

卒業後は、K区にある大学院へ進みましたが、縁あって現在の職場に就職することになり、1年で中退しました。

【仕事】

私が所属する部署では、全道の漁協をまわり、水質調査・パトロールを通じた河川・海洋汚染防止に向けた環境保全対策を行っています。関係機関との協議や要請活動も重要な任務です。浜の皆さんに頼られる技術者を目指して日々研鑽を積んでおります。

【技術士第一次試験受験】

母校はJABEE認定校ではなかったので、技術士を目指すには第一次試験の受験が必要でした。周囲は「そういう仕事」をしたいなら、是非挑戦しましょうという雰囲気、院生を中心に受験者がおり、試験は比較的身近な存在でした。

大学を卒業し、共通科目は免除になったものの、「まあそのうち」などと先延ばしにしているうちに就職。就職後も1年目は、ホタテの稚貝を検品したり昆布を干したり秋鮭を売ったりと新人研修で忙しく、受験は頭からスッポリ抜け去ってしまいました。2

年目になって、そういえばうちの業務にも技術士が必要な局面もあるわけだし、受けてみようかしら…と思い立ち、平成22年(2010年)、おもむろに受験準備を開始しました。

基礎科目、適性科目は過去問題集で対策を立てました。わからないところは問題集の解説を読みながら取り組みました。専門科目は、薄手の問題集と、建設部門&環境部門が一緒になった問題集の2冊を一通り解いてみました。そうして迎えた試験当日、会場に着いてみると、前の席は研究室の後輩。廊下に出たら研究室の先輩と同輩が一人ずつ。なんだか楽しくなってしまう、「帰り飲みに行きましょうね〜。」などと呑気に構えていたら、受験後の感触は、微妙。こ、こんなはずでは…。結果は僅差で不合格でした。

翌年、平成23年(2011年)は悔しさをバネにして、出張先で飲まされてもめげずに宿で問題集に向かい、夜のファミレスに居座り、有料自習室を活用し、リベンジに挑みました。試験会場に着いてみると、隣の席には昨年廊下で遭遇した先輩が、廊下に出たら研究室の同輩も。斜め向かいの席にはなんと母校の准教授が！みんなで受ければ怖くない?! 適性科目がなにやら難しいように感じましたが、リベンジ学習が功を奏し、無事合格することができました。

【習得技術者として】

翌年1月に開催された合格者歓迎会では、エンジニアサイエンス研究会のT代表とお話する機会があり、早速入会させていただきました。科学の楽しさを多くの皆様に伝えることができるようなステキな出前授業が出来るように、目下模索中です。

2次試験受験まではまだあと数年かかりますが、経験を積み楽しみながら取り組んでいきたいです。